

成田マイアミ直行便(日本航空の当地訪問)

5月17日、木村日本航空米州地区支配人(兼ニューヨーク支店長)、宝田同米州地区販売部長が当地に出張越し、マイアミ空港主催のアジアとの直行便に関するタスクフォース会合に出席した。

公的資金注入を受けてきた日航は、これまで新規路線開設に制限を受けてきたが、2017年から2020年の中期計画ではこの制約が外れ、成田マイアミ直行便も新規路線の検討対象となっている。

【概要】

日本航空を主賓として、主催者側からゴンザレス・マイアミ空港CEO、タルバード・大マイアミ会議・観光局CEO、マイアミ日本商工会、地元ビジネス等の関係者約30名が出席したところ、主な発言は以下のとおり。

(1) デツナー州国務長官の挨拶(代読)

日航のマイアミ直行便の可能性に気持ちをたかぶらせている。日本とのビジネス、教育、文化などの分野の交流は重要である。スコット州知事以下、州政府として直行便の実現に向けて応援する。

(2) ゴンザレス・マイアミ空港CEO

アジアとの直行便実現は優先順位が高い。他方、アジアは地理的にもっともマイアミから遠方に位置するため、適切な航空会社が直行便を飛ばす必要がある。日航の直行便検討を歓迎する。16日にマイアミ空港の施設を日航関係者に対して紹介した。

(3) ラッセル・マイアミ市議

自分(「ラ」)は母親が日本人であり、日系人として初めてのマイアミ市議である。日本との関係を強化するため、直行便に関心がある。自分(「ラ」)は、総領事の尽力により先般訪日し、安倍総理とも会見した。直行便の実現を応援する。

(4) コンサルタントのプレゼン

マイアミは、全米でNYに次いで二番目に外国訪問客の多い都市(2016年に760万人)であり、マイアミ周辺には1400社の多国籍企業が拠点を置く。マイアミ空港は中南米56カ所に航空便が飛ぶ、中南米へのゲートウェイである。

フロリダ州南部では、15の地元企業が東京に事務所を有し、また、41社の日系企業が同地域に拠点を置く。

(5) 清水マイアミ日本商工会副会長(ニプロ)

マイアミには、ニプロの北米・南米地域本部を置く。直行便があれば、利便性が高まり、ニプロや顧客等が今以上にマイアミと成田を往復する。

(6) 木村日本航空米州地区支配人

日航は2018年のPGAツアーのスポンサーとなっており、日本とフロリダ州の間で日航を利用する旅客が増えることを期待する。

日航は、2010年の破産申告後、再建に取り組み、2017年3月決算では10%の利益率を達成した。これを受けて2017年4月から2020年3月の今期中期計画では、新規路線等に関する制約が外れた。米国線は、国際線の利益の半分を生み出しており、重要路線である。現在、日航は、米国向け既存路線の増便及び新規路線を検討中である。後者には、マイアミ便も検討対象となっている。

(参加者からの質問に答えて) 直行便の検討に際しては、旅客のみならず貨物輸送も重要である。マイアミ空港は、貨物輸送のハブ空港であり、この点も考慮する。